

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	栃木県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大平町立大平西小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	18
児童数	72	66	75	68	70	72	4	427	

研究の概要

1. 研究主題

<p>個に応じた指導の充実による「確かな学力」の向上 ～算数科を中心とした指導方法の工夫(第1年次)～</p>

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>1～2年生・・・算数科, 国語科 3～6年生・・・算数科 * 児童の実態をもとに, 児童の確かな学力の向上を図るために, 理解度に差が出やすい教科を中心に研究を進めた。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 個に応じた指導の充実による「確かな学力」の向上 ～算数科を中心とした指導方法の工夫(第1年次)～</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた指導方法・指導体制や評価を工夫改善すれば, 基礎的・基本的な内容が定着し, 「確かな学力」の向上が図れるであろう。 ・ 算数科を核とした研究で得られた成果を他の教科に生かしたり, 教科担任制で見取った児童の特性を結集したりしていけば, 児童一人一人のよさがさらに伸びるであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <p>指導方法・指導体制の工夫改善</p> <p>ア 個に応じたきめ細かな指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を明確にし, 児童の実態をとらえ, 個に応じた指導の手だてを充実させる。 ・ より個に応じた習熟度別学習を展開するとともに, 児童一人一人が自分に合ったコース選択ができる支援を工夫する。 <p>イ 指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 算数科を中心にT・Tによる指導や習熟度別学習を追究する。 ・ 低・中・高学年ブロックを中心に教科担任制を導入する。 <p>評価を生かした指導の工夫改善</p> <p>ア 評価規準の作成と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T・Tによる指導と習熟度別学習の特性を生かした「学習形態一覧」と「学習計画」を作成する。 ・ 「学習計画」と一体化した「評価計画」を作成し, 具体的評価規準や評価方法を明確にする。 <p>イ 評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な評価方法を工夫する。 ・ T1とT2, 教科担任と学級担任の情報交換を密にする手立てを工夫する。
--------	--

平成
15
年度

- 教材の工夫改善
- ア 教材の工夫
 - ・ 習熟・補充・発展を図るワークシートを作成する。
 - ・ 特に補充的な学習で生かせる教材を工夫する。
 - イ 家庭学習の充実を図る。
 - ・ ドリルやプリントを通して、家庭学習を定着させる。
 - ・ 「本読みカード」などを活用して、読書の習慣化を図る。
- 学びを支える環境の整備
- ア 学びを支える指導
 - ・ 「基礎的な学力育成のための学年のめあて」を設定し、定着させる。
 - ・ 「がんばり学習の時間」で計算力を、「がんばりタイム」で漢字力の向上を図る。
 - ・ 「おおにしタイム」(朝の活動)に地域の人材を活用するなどして、読み聞かせ等の読書活動を行う。
 - イ 学習環境の整備
 - ・ 習熟度別学習に対応する教室を設ける。
 - ・ 算数科を中心に学習準備室を整備する。
 - ウ 家庭との連携
 - ・ 学校だより(「おおに시다より」)や学年だよりなどを発行する。
 - ・ Webページを拡充する。

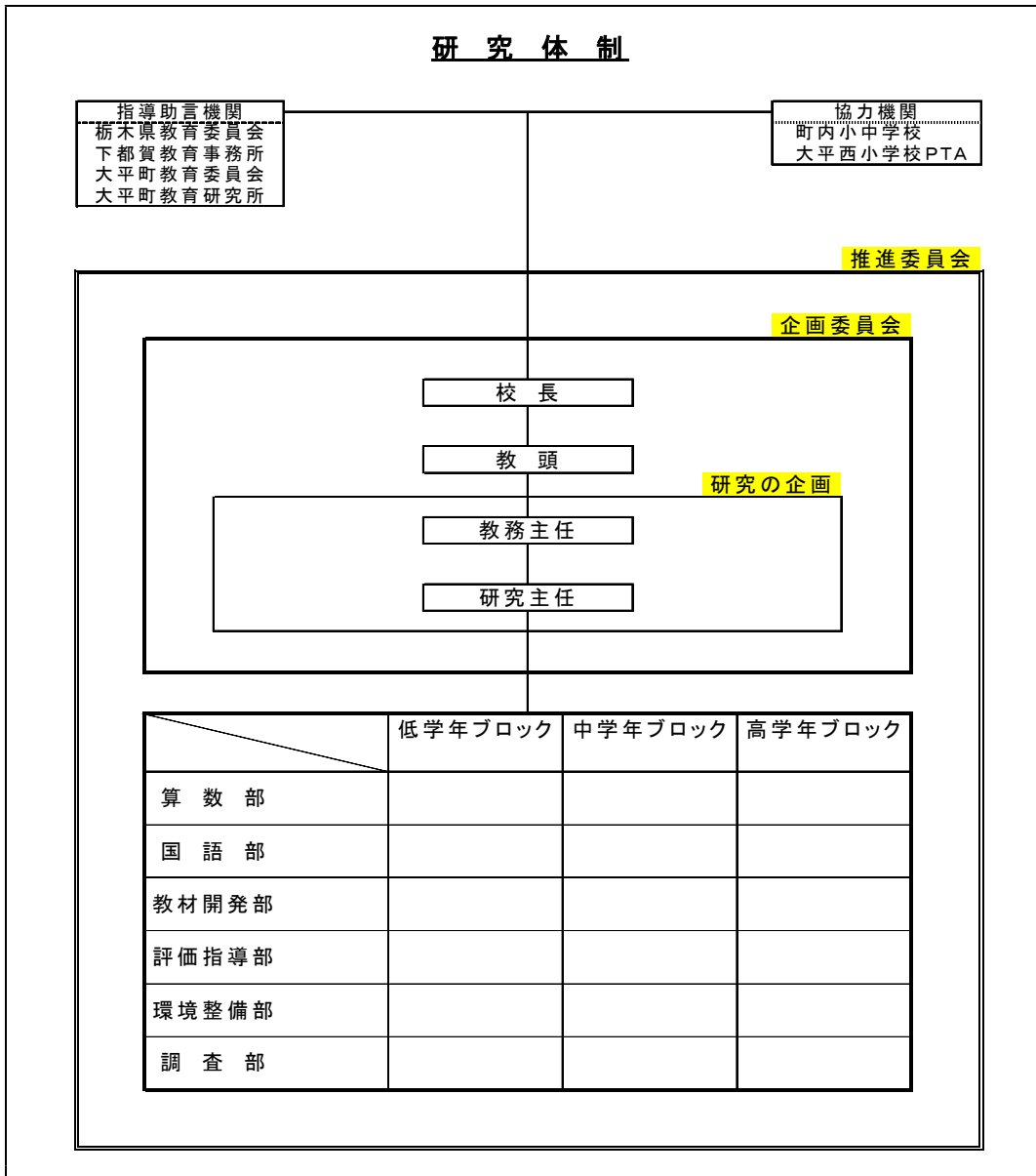
平成
16
年度

- テーマ
- 個に応じた指導の充実による「確かな学力」の向上
～算数科と国語科を中心とした指導方法の工夫(第2年次)～
- 仮説
- ・ 児童一人一人の学力などを分析・把握し、その実態に応じた教材をさらに工夫改善するとともに、指導と評価の一体化を図っていけば、「確かな学力」の向上が図れるであろう。
 - ・ 算数科の研究で得られた成果を国語科に生かしたり、教科担任制で見取った児童の特性を結集したりしていけば、児童一人一人のよさがさらに伸びるであろう。
- 研究の内容・方法
- 教材の工夫改善
- ア 教材の工夫
 - ・ 習熟・補充・発展を図るワークシートを作成する。
 - ・ 特に補充的な学習で生かせる教材を工夫する。
 - イ 家庭学習の充実を図る。
 - ・ 補習の時間を位置づけ、家庭学習との連携を図る。
 - ・ 「本読みカード」などを活用して、読書を習慣化させる。
- 評価を生かした指導の工夫改善
- ア 評価規準の焦点化
 - ・ 一斉指導、T・T指導とコース別指導の特性を生かす評価規準を設定する。
 - ・ 学習内容、具体的評価規準と評価の重点の脈絡を図った「評価計画」を整備する。
 - イ 評価の工夫
 - ・ 多様な評価方法をさらに工夫する。
 - ・ 週時程表に、T1とT2、教科担任と学級担任の打合せ会を位置づける。
- 指導方法・指導体制の工夫改善
- ア 個に応じたきめ細かな指導
 - ・ 事前テストを実施して既習内容の定着状況などを把握するとともに、事後テストから児童一人一人の伸びを見取る。
 - ・ 「コースガイド」や「ふり返りカード」などから、児童に、学習の見通しを持たせたり習熟度をつかませたりしながら、より自分に合ったコースを選択できるように支援する。
 - イ 指導体制の工夫
 - ・ 国語科におけるT・Tによる指導やコース別学習を追究する。
 - ・ 低・中・高学年ブロックを中心に教科担任制を充実する。
- 学びを支える環境の整備
- ア 学びを支える指導
 - ・ テストをもとに「基礎的な学力育成のための『学年のめあて』」

平成16年度

- を改善し、さらに定着させる。
- ・ 計算力や漢字力を高める「がんばり学習の時間」と「がんばりタイム」を、継続して行う。
- ・ 「おおにしタイム」(朝の活動)の読み聞かせなどの読書活動を中心に、外部人材を活用する。
- イ 学習環境の整備
 - ・ 学習のあとが分かる掲示物を工夫する。
 - ・ コンピュータ室の活用を増進する。
- ウ 家庭との連携
 - ・ 授業参観でもT・Tやコース別学習を公開し、保護者の一層の理解を深める。
 - ・ Webページを拡充するとともに、迅速な更新を図る。
- 教師の協業を生かした学級経営の充実
 - ・ コース別学習や教科担任制のもとで、学級担任以外が見取った児童一人一人のよさを学級担任に集める。
 - ・ 学級担任は集まってきた情報を整理し、学級経営を機能させながら、児童一人一人のよさを伸ばす。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

事前テストを実施することにより、児童の実態を把握し、児童一人一人により見合った指導を行うことができた。また、事後テストによって、児童の伸びをとらえられるようになった。

児童は、コース別学習に対して、こだわりを持たずに学習に参加していた。また、ほとんどの児童が、コース別学習に満足していることがアンケート調査から分かった。(以下参照)

「学習計画」と「学習形態一覧」で学習内容と一斉指導・習熟度別指導の関連を、「評価計画」で具体的評価規準と評価の重点の脈絡を図ることにより、各単元における評価を見通すことができた。

習熟や補充を図るワークシートを工夫改善することにより、児童一人一人により即した授業を展開することができ、学力を向上させることができた。

「学年のめあて」を設定し、「がんばり学習」と「がんばりタイム」との関連を図りながら、基礎的な学力を育成することは効果的であった。

校内LANを活用して、教科指導を始め特別活動における児童一人一人のよさを、学級担任に集積することができた。

意識調査(アンケート)から、以下のことが明らかになった。

- ・ 習熟度別学習(効果)
 - 児童.....よい [45%]
 - どちらでもよい [36%]
 - 保護者.....効果がたいへんあるので継続してほしい [48%]
 - " 少しあると思うので継続してほしい [41%]
- ・ 「がんばり学習」、「がんばりタイム」(複数回答)
 - 前よりも勉強が好きになった [64%]
 - 前よりも勉強が分かるようになってきた [83%]
 - 前よりも勉強にやる気が出てきた [70%]
 - 前よりテストの点数がよくなった [63%]

2. 今後の課題

時間割を2期に分けるなどの工夫をして、教科担任制における時数確保に努める。

各単元における評価規準を焦点化するとともに、年間を見通しながら単元と単元との脈絡を図る。

発展的内容を扱うワークシートを開発し、より個に応じた授業を進めていきたい。

授業時数の確保からも、「がんばり学習」や「がんばりタイム」を帯時間として週時程に位置づけていく。

学級経営を機能させて、児童一人一人のよさをより広く深く見取る環境を醸成していきたい。

学力等把握のための学校としての取組

単元テスト	学期ごとに実施・分析
「学年のめあて」テスト	年1回, 2月実施
学力テスト	年1回, 2月実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 研究会
 - ・ 下都賀地区学力向上推進研修会
 - 日時;平成15年11月28日(金)
 - 場所;大平町立大平西小学校
 - 対象;大平町・藤岡町・岩舟町・栃木市の各小学校
 - ・ 校内授業研究会
 - 日時;平成15年6月25日(水),平成16年2月5日(木)
 - 場所;大平町立大平西小学校
 - 対象;大平町の各小学校
- Webページの作成

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無